

令和2年度 学校評価計画 総括評価表

徳島県立穴吹高等学校

○評価規準 A:十分に達成できた / B:概ね達成できた / C:十分には達成できなかった / D:全く達成できなかった

重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題・改善策	
	評価指標と活動計画	評価			
1 主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるよう授業の工夫をする。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 非常に高い達成率を上げていることは授業参観から見ても如実に表れている。先生方の愛情あふれる接し方と興味・関心を引く指導法を研究・実践すると共に各種教育機器を効率よく活用し、生徒の「やる気」を上手に引き出して、生き生きとした活発な授業が展開できていた。今後も研鑽を継続してほしい。</li> <li>○ 目標の達成、自己評価ともに良くできている。総合評価がBとされているが、Aでもよいと考える。目標に対する評価指標の設定が直接結びついていないので、再検討してほしい。</li> <li>○ 2-②については自己評価とことだが、授業の参観シートを活用してはいいか。評価を上げて次年度により高い目標を掲げてより改善してほしい。</li> </ul>	
	1 他教員の授業を2学期、2名以上の授業を見学する。教員(2名以上)の授業見学率90%以上を目指す。	1 ※( )内は昨年度 教員(2名以上)の授業見学率 〔2学期〕 97.8% (100%)  年間全体 97.8% (100%)			(評定)
	2① 生徒への授業アンケートで「授業にまじめに、また積極的に取り組んでいますか」の質問に対し「大変当てはまる」「当てはまる」と回答する割合が全学年70%以上を目指す。	2① 〔1学年〕 94.6% (87.5%) 〔2学年〕 80.4% (85.7%) 〔3学年〕 90.3% (80.8%) 生徒全体 88.4% (84.7%)			活動計画に関しては、学校行事等を考慮して11月を公開授業月間とした。その他は計画通り実施できた。評価指標については、生徒、教員ともに授業への評価目標を達成することができた。生徒を中心とした授業の実践により、授業に積極的に取り組む生徒も年々増えてきている。また、今年度もほぼ全ての教員が2名以上の授業を見学することができた。公開授業で他の先生方が見学しに来ることは、生徒にとって良い刺激になっているように見られた。校内研修では、研究授業における事前検討会や研究協議を充実させることができた。
	② 教員への授業アンケートで「生徒を中心とした授業の展開ができたか」の質問に対し「そう思う」「だいたいそう思う」と回答する割合が75%以上を目指す。	② 「そう思う」 40.0% (22.2%) 「だいたいそう思う」 46.7% (66.7%) 教職員全体 86.7% (88.9%)			
活動計画	活動計画の実施状況				
1 2学期に1か月すべての授業を公開し、他の教員の授業を参観し、点検することにより、自らの授業力の向上やスキルアップを図る。また、参観される側も、参観シートで指摘を受けることにより授業実践力の向上を図る。	1 11月を公開授業月間とし、すべての授業を公開した。2名以上の教員の授業見学を目標とし、見学後には参観シートへ記入した。参観シートには「参考になった点」や「この授業で注意・改善した方がいい点」を書く欄を設け、参観する側もされる側も授業実践力を向上できるようにした。				
2 2学期末に生徒・教員へ授業についてのアンケートをとる。	2 12月中旬に生徒と教員へ授業アンケートを実施した。				
2 自らの将来を具体的に思い描き、主体的に学習することを通して、基礎学力の伸長と進路実現を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎学力は学習活動の基礎となる大切なものである。優秀者の割合が高く、特に3学年で半数以上を占めているのは教職員の熱意ある指導によるもので、高く評価される。</li> <li>○ 年齢・職業を問わず常に必要とされるのは読解力だ。いわゆる読み・書き・算盤の基礎をしっかり指導してほしい。</li> <li>○ 数値的な目標が明確であり、結果も判断しやすいと思う。しかしながら、重点目標に対して活動計画が直結していないように感じる。</li> <li>○ 基礎学力を養成した結果、3年生の進路決定率が100%となり、希望する進路実現が図れたとなっているが、もう少し高い目標設定を行えば、さらなる学力向上につながるように思うが、いかがだろうか。</li> <li>○ 平均学習時間が最も長いのは1年生だが、英単語テストの優秀者の割合が他学年よりかなり低い。この点の分析もぜひ行うべきと考える。</li> </ul>	
	1 基礎学力養成のため校内で漢字テストおよび英単語テストを実施し、年間平均85点以上の優秀者の割合を漢字テスト、英単語テストともに各学年30%以上を目指す。	1 年間平均85点以上の優秀者の割合 漢字テスト 〔1学年〕 39.3% 〔2学年〕 42.1% 〔3学年〕 51.8% 英単語テスト 〔1学年〕 14.3% 〔2学年〕 35.1% 〔3学年〕 52.7%			(評定)
	2 1年生で国語・数学・英語の基礎教科に関して学び直しを行い、認定テストの最上級の合格者を70%以上とする。	2 1年生認定テスト最上級合格率 国語 94.6% 数学 87.5% 英語 53.6%			(所見) 活動計画の実施状況については概ね計画通りに実施でき、評価指標を達成した。特に、3年生の漢字テストでは、努力が成果に結びついた。3年生の進路決定率は、100%となっており、希望する進路実現が図れた。
	3 学力の定着を図るため家庭学習を促し、特に定期考査期間中、各学年において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。	3 一人あたりの1日平均学習時間 〔1学年〕 3.1時間 〔2学年〕 2.9時間 〔3学年〕 2.7時間			
活動計画	活動計画の実施状況				
1 実施日に向けて国語科・英語科を中心に事前対策を行い、各学年・クラスでも学習を奨励し、校内表彰に加えて学年表彰を設けることで漢字および英単語の習得を督促する。	1 国語科・英語科と担任が協力して事前指導を実施した。また事後指導として、課題プリント学習を行った。				
2 授業および課外学習での学習時間を確保するとともに、定期考査の範囲に盛り込むことにより学習意欲の高揚と持続を図る。	2 授業および課外学習で学習時間を確保し、さらに定期考査の出題範囲として提示することで学習意欲を向上させ、繰り返し学ぶことができた。				
3 考査期間を含む1週間の家庭学習調査を実施し、生活スタイルの見直しや適切な学習内容について担任が助言する。	3 家庭学習時間を記入させることで、生徒の学習状況を担任が把握できた。また面談の際に学習時間記入用紙をもとに話をし、勉強不足の事実を保護者にも伝えられた。				

自己評価			学校関係者評価	
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	次年度への課題・改善策
3-1 基本的な生活習慣の確立を図るために、遅刻指導、頭髪・服装指導に重点を置く。また、学校や社会のルールを守るとともに正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が楽しく学習活動ができるためにも、学校は安全・安心の場であらなければならない。いじめ防止や安全教育にも多くの行事や指導を組んできめ細やかな取り組みが行われ、成果を上げている。</li> <li>○ 人格・品位は毎日の生活習慣が現れるものである。生徒たちが方向性を過つことのないような指導を求む。 また、昨今のいじめは見えにくくなったと言われるからこそ、教員には情報交換等を徹底してもらいたい。</li> <li>○ 基本的な生活習慣の確立に向けてさらに指導が必要であるが、指導者数の平均よりも、特定の生徒への指導をどうすべきかが大きな課題であると思う。</li> <li>○ 指導が必要な生徒に対して継続指導をしているということだが、何かペナルティを与えるなどの基準はあるのか。駄目なことは駄目だと理解させ、指導することが大事だと思う。</li> </ul>
	1① 毎月行う頭髪・服装指導の頭髪再指導者数が1ヵ月平均5名以下を目指す。	1① 頭髪の再指導者数（5月～1月） 〔1学年〕 4名 〔2学年〕 4名 〔3学年〕 4名 1ヵ月平均 1.5名	(評定) B	
	② 1年間を通した1日平均の遅刻者数が3名以下を目指す。	② 全校生徒に対する遅刻者数の割合（5月～12月） 1日平均 2.2名	(所見) 頭髪再指導の1ヵ月平均の人数は1.5人と目標を達成できた。頭髪・服装指導が継続的に指導が必要な生徒は一部に限られ、きまりを守り前向きな態度で大半の生徒は学校生活を送っている。しかし、男子の柄物の靴下や女子のスカート等々の小さな違反等は継続して指導する必要がある。 遅刻者数は設定目標を達成することができた。昨年度の1日平均1.0名からは2.2名まで増加した。新型コロナウイルス感染症の影響の為に、生活習慣のリズムを整えることが難しかったのが原因の一つと考えられる。 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年度当初の計画通り生徒への学校での職員研修・HR活動などでいじめ等の未然防止のための活動を実施することができた。 特に校内での情報交換を密にしたことにより、トラブル等の早期発見、早期解決ができた。	
	③ 校内巡視・校外巡視を行うことにより、問題行動の未然防止を図る。	③ 校内巡視（5月～1月） 全職員による巡視 100日 生徒課による巡視 校内 60日 校外 45日 (校外巡視は午前中授業の日中心に実施)		
3-2 自他の生命を尊重する態度・習慣を養うとともに、いじめの防止や安全教育の徹底を図り、いじめの解消、交通事故等の抑止に努める。	2 ① いじめ等の未然防止のためのホームルーム活動・安全意識向上のための学校行事等を年間10回以上実施する。	2 ① 学校生活アンケート 2回 ホームルーム活動 1回 職員研修 2回 部活動生集会 1回 携帯電話安全教室 1回 合計 7回（5月～12月）		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交通安全やスマートフォンの家庭、学校での使い方についてのルールを守り、健康で安全な生活が送れるように指導を行う。</li> <li>○ 授業を受ける態度やいじめ等の未然防止について正副担任、学年団、生徒指導課がそれぞれ連携を図り、適宜個別に面談を実施するなど効果的な指導を継続的に行う。</li> <li>○ 交通安全やスマートフォンの家庭、学校での使い方についてのルールを守り、健康で安全な生活が送れるように指導を行う。</li> </ul>
	活動計画	活動計画の実施状況		
	1① 毎月の頭髪・服装指導以外にも、随時気になる生徒を指導する。	1① 5月～1月までに毎月1回、合計8回学年別に実施した。違反生徒は再指導を行い改善させ、気になる生徒はその都度注意をし、指導した。		
	② 計画的、継続的に校内巡視・校外巡視を行うとともに、気になる場合には随時巡視を強化する。	② 校内巡視は、基本的に全教職員が毎日交代で実施した。校舎内外の死角になりそうな場所を中心に巡視した。校外巡視は、午前中で放課になる日を中心に、JR穴吹駅周辺、量販店周辺などで実施した。		
2 ① いじめ等の防止のための年間計画に沿った活動を実施する。	2 ① ホームルーム活動でいじめの問題等を考える機会を与え、いじめを気づかせ解消に向けた取り組みをした。			
4-1 日々の清掃活動を推進する他、月1回アースデーを設け、ゴミの分別やポイ捨ての禁止、節電・節水呼びかける。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境ISO14001は、基本的に全員参画活動となっている。先生方や生徒が共有し、目標達成のために取り組んだ結果となっている。水道使用量の減少要因は明確であるが、電気使用量に関してはどのような活動の結果かも示すとよい。</li> <li>○ 穴吹高校は美馬市土砂災害警戒区域に指定されている。避難訓練等を通じ、万が一の災害に生徒が迅速な避難に対応できる訓練の充実を図ってほしい。</li> <li>○ びかびかコンテスト、エコキャップバトルなどは素晴らしい取り組みだ。いろいろなアイデアを出し、積極的に頑張ってもらいたい。</li> <li>○ 授業参観で校舎も見せていただいたが、清掃が徹底されていた。根気強い指導と校舎を大切に扱っていることが感じられた。</li> <li>○ 防災対策に加えて、新型コロナウイルス感染症対策も必要な1年であったと思う。授業参観の中で、教室の換気がされていることも見えた。今後も継続していただきたい。</li> </ul>
	1① びかびかコンテストを各学期ごとに実施する。	1① 毎学期審査を実施した。	(評定) B	
	② 美化委員がポイ捨ての禁止や節電・節水について、アースデーの朝SHRで呼びかける。	② 毎月のアースデーにおいて啓発活動を行った。また、エコキャップバトルの実施や啓発ポスターの作成および校内掲示により、全校生徒の環境美化・エコに対する意識が高まった。	(所見) びかびかコンテスト・エコキャップバトル等の実施により生徒の美化・エコ活動に対する意識は向上しつつあり、校内の環境は良好に保たれている。 水道使用量については漏水補修工事を行い、大幅減となった。光熱費は昨年と同程度であった。防災クラブの取組は、今までとは活動の仕方を大きく変えたものとなったが、校内活動は充実したものとなった。	
	③ 電気・水道の使用量がそれぞれ170,000kW(4月～12月)、3,000㎡未満を目指す。	③ <電気水道使用量> 電気：4～11月の電気使用量 101,812kW 1,307kW減 昨年度より1.2%減 水道：4～11月の水道使用 906㎡ 1880㎡減 漏水補修工事により昨年度より67.5%減		
4-2 活動を詳細に記録することで生徒の防災意識及び発災時に行動できる力の向上を図る。	2 ① 防災クラブの活動を年間7回以上実施する。そのうち地域の方とつながる活動を2回以上実施する。	2 ① 新型コロナウイルス感染症の影響で活動を縮小せざるを得なかったため、防災クラブの取組は年間7回の実施中、地域での活動を実施することが出来なかった。しかし、校内の避難訓練では防災クラブの生徒が制作したパワーポイントの資料を使用して実施することができた。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内で実践した防災に関する活動や内容を地域や家庭に還元できるような活動を計画する。</li> <li>○ 今年度は新型コロナウイルス感染症の対策として、マスク着用の呼びかけや教室の換気、校舎内の消毒などに教職員や保健委員会を中心に取り組んできた。感染症が終息するまで今後も継続して取り組む。</li> </ul>
	活動計画	活動計画の実施状況		
	1① 各学期ごとにびかびかコンテストを行い、最もよく頑張った生徒の所属するクラスまたは分担を表彰する。	1① 審査員が毎月審査を行い、学期末に最もよく頑張った分担箇所を表彰した。		
	② 家庭や地域にも呼びかけ、美化委員とJRC部員が中心となりペットボトルキャップを回収する。	② クラス対抗エコキャップバトルとしてエコキャップの回収量を競い、各学期ごとに回収量の多いクラスを表彰した。2学期末までに回収したキャップの総量は83.7kgとなった。		
③ 学期ごとの電気・水道の使用状況をISOコーナーに掲示する。	③ 計画通り実施できた。			
2 ① 地域の防災研修会や校内研修会などの活動後は毎回、内容と感想を記録する。	2 ① 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が大幅に縮小されたが、リモートでの防災学習への参加と校内での研修については活動後に内容と感想の記録を実施することができた。			

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題・改善策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
5-1 生徒会活動や学校行事を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		○ 生徒会を中心に活発な活動ができていたことを誇らしく思う。今後も生徒会役員・部活動生徒を中心に、それ以外の生徒も巻き込んだ活発な活動を期待する。
	1① 学校行事への生徒参加率90%以上を目指す。	1① 学校行事における生徒参加率は99%であった。	(評定) B		
5-2 部活動のより一層の活性化を図る。	2② 生徒会役員があいさつ運動を毎週月・金曜日に実施する。	2② 毎週月・金曜日にあいさつ運動を実施できた。	(所見) 生徒会活動や委員会活動等、生徒を主体とした活動を充実させることにより、生徒の責任感も向上した。学校行事については、概ね前向きに参加できているというアンケート結果が出ている。行事等を縮小化するなかで、校内行事の内容や運営を精選した成果である。部活動においては活動内容の充実や良い成績を残す部が増加しているが、全体的に部員数が昨年に続き減少している。部活動に参加する意味や心身を成長させる機会であることを理解させる工夫が必要である。		○ 各部の清掃活動について、重点的に行う場所や時期を指定する。また、部活動生による校外清掃の機会を増やす。  ○ 生徒数が減少するなかで、学校行事や部活動をどのように改善していけば良いかを考え、精選する必要がある。  ○ 部活動生集会をさらに活性化するために、顧問や生徒の声も集会に取り入れて、各部の活動の連携を促す。
	2① 各部が校外の場所を決定し、年間2回以上清掃活動を行う。	2① 各部清掃場所を決定し、年間2回以上清掃活動を行えた。	○ 少林寺拳法部の全国大会出場など、素晴らしい成績が残っている。しかし、近年では全国区のレスリング部を始め、部員不足に悩まされている状況だと推察する。穴吹高校の魅力を校外に発信する仕組みを考え、部員増員に対する活動を打っていかなくてはならないと思う。  ○ 少子化に加え、新型コロナウイルス感染症により活動自体が抑制される厳しい時代である。全国的に成功している例を参考にしながら、本校ならではの解決策を見出してはどうか。競技団体との相談、情報の収集、先輩の出身大学に当たるなどの策も考えてはどうか。		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	1① 生徒会や各クラスの生徒が自主的・主体的に企画・運営できるような適切な指導を行う。	1① 学校祭の内容について、生徒会役員を中心に夏休み前から検討を重ねた。体育祭に関するアンケートを実施し、短時間のなかでできるだけ生徒の希望に沿った内容が実施できるよう工夫した。			
	2② 生徒会役員がリーダーとなって積極的にあいさつを行い、全校生徒が挨拶を交わせる習慣を身につけさせる。	2② 生徒会役員によるあいさつ運動により、一層積極的にあいさつをする生徒の姿が見られた。			
	2① 部活動を中心に、校外の清掃活動を行い、積極的に環境美化活動に取り組む。	2① 生徒会・部活動を中心に、日頃できない場所を清掃し、校内美化活動に貢献した。			
	2② 部活動生集会において、部での活動全てが学校の活性化につながることを認識させ、学校及び部活動の発展に取り組む。	2② 部活動生集会は、新型コロナウイルス感染症の影響があり、1回しか行えなかった。各部の生徒が学校の代表としての自覚を持ちながら、数少ない大会に向けて日々一生懸命練習に取り組んだ。また、掲示板を利用し、各部の活動内容を情報共有できるように工夫した。			
6 生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図り、人権問題の解決に向けて取り組む力を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		○ 人権意識を高めるためには継続的な取り組みが必要だ。今後も生徒の実態に応じた指導を積み重ね、人権意識の向上に向けて取り組んでいただきたい。
	1 12月に実施する人権問題意識調査において、校内での人権学習にクラスが「活発に取り組めた」「どちらかと言えば活発に取り組めた」と回答する割合が80%以上を目指す。	1 活発に取り組めたと回答した生徒の割合は90.2%であった。	(評定) B		
	2 12月の調査において、人権問題解消に向けての意欲を持つと回答する割合が70%以上を目指す。	2 人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲を持つと回答した割合は74.2%であった。	(所見) 生徒の取組に関する評価指標は目標に達した。人権委員の生徒は、校内人権の日の補助・運営や校内行事の運営に前向きに取り組むことができた。保護者と人権問題について話し合う生徒が少ない状態が続いている。		○ 人権学習に活発に取り組めた割合が90%を越えることは、先生方の熱心な指導によるものであり、常日頃からの人権に対する取り組みが結果として表れており、評価される。今後も人権の大切さを教育活動の中に取り入れ、意識の向上を図っていただきたい。  ○ 社会には色々な人権問題が数多くある。それを一つ一つ理解していくことも大切であり、学びであると思う。ぜひ続けていただきたい。
	3 12月の調査において、校内での人権学習に「まじめに取り組んだ」「どちらかと言えばまじめに取り組んだ」と回答する割合が80%以上を目指す。	3 まじめに取り組んだと回答した生徒の割合は96.3%であった。			
	4 年3回発行する人権啓発新聞「Together」に保護者向けの啓発記事を掲載する。	4 「Together」に人権ミニコーナーを設け、同和カルタと、聴覚障がい者に関するマークについての保護者向けの紹介記事を掲載した。			○ 保護者と連携して生徒の人権教育を実施するために、PTA総会などの機会をとらえ保護者への情報提供・協力依頼を積極的に行い、生徒の人権意識高揚に努める。  ○ 「Together」の紙面に人権問題についての生徒の意見や家庭で話題となる記事の掲載を継続し、保護者の方々に人権問題に関心を持ってもらうよう努める。
	活動計画	活動計画の実施状況			
	1 月1回「人権の日」にはソーシャルスキルトレーニングを行うことで自分の大切さとともに、他の人の大切さも認め合う資質を身につける。	1 昨年度から引き続き、身近な対人関係や集団行動を上手に営むための技能であるソーシャルスキルトレーニングを行い、計画通り実施できた。その際に人権委員が補助・運営に関わった。			
	2 年2回、人権問題意識調査を実施し、生徒の意識の変化を分析する。	2 計画通り実施できた。			
	3 ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせた内容を実施する。	3 人権ホームルーム活動は各学年ともに年間5回、計画通り実施できた。9月29日には人権教育映画鑑賞会を実施し、『聲の形』を通して聴覚障がい者の人権問題に対する理解を深めた。			
	4 人権啓発新聞「Together」を家庭で読んでもらえるように、人権委員やヒューマンライツ部を中心とした広報活動を行う。	4 人権問題に関する学校行事、人権ホームルーム活動などの内容や部員の感想を掲載し、家庭に送付した。また、華の丘祭において人権啓発展を実施した。			

※全体を通して  
学校評価をよりよいものとするために、PDCAサイクルが生きるよう、あえて高い目標を設定することも良いのではないかと。C評価が出て、そこからの改善策を考え、実行することが今後のためになるだろう。  
また、生徒と教員だけの評価になっているので、保護者の意見も入れた評価にすべきではないか。